



2015 年 11 月 28 日に東京渋谷で行われた地方創生イベント「まちてん」で「プロジェクトT」の事例をプレゼン (C) Kei Sato



観光名所となっている東峰村の美しい「めがね橋」

【2015 年度秋期「プロジェクトT」科目概要】

福岡県最少の自治体である東峰村をクライアントに見立て、地方創生の施策を提案する科目

- ・科目名:「プロジェクト T」(2 年次科目 / 4 単位)
 - ・担当教員: 宇田左近教授 (BBT 大学経営学部長 (現 BBT 大学副学長 兼 経営学部長))
 - ・開講期間: 2015 年 10 月 6 日 ~ 2016 年 2 月 6 日
 - ・開講スケジュール
- | | | |
|------------------------|---|--------------|
| 10 月 ~ 11 月中旬 | 動画講義受講・情報収集・課題の認識等ディスカッション | オンライン |
| 11 月 20 日 ~ 23 日 @ 東峰村 | 東峰村実地調査 (村民インタビュー、実地調査等) | 現地参加 |
| 11 月下旬 ~ 12 月 | 中間発表に向けた考察、ディスカッション | オンライン |
| 12 月 19 日 @ 東峰村 | 中間発表会 (村長への中間発表とフィードバック) | オンライン & 現地参加 |
| 12 月下旬 ~ 2 月上旬 | 最終プレゼンに向けたブラッシュアップ (村民への質疑応答、ディスカッション等) | オンライン |
| 2 月 6 日 @ 東峰村 | 最終プレゼン | オンライン & 現地参加 |

【2015 年度秋期履修者】

14 名の学生が履修。居住地は東京、大阪、愛知等の都市部をはじめ、地元福岡や大分、さらには北海道や中国の深センなど多岐にわたった。

【科目の目的】

本科目は、これまでに修得してきた問題解決力を、実在する地方自治体に対する施策提案という形で実践することを目的とする。現地に一定期間住み込んで行う従来型の地方創生活動とは異なり、オンライン環境を利用して遠隔から、「日本あるいは世界から見た東峰村」、「福岡、九州、日本という枠組みを超える視点から見た東峰村」など、新しい視点で地方創生を考えることができことも特徴である。

【村長からの課題】

「人口減少、高齢化により過疎化する東峰村の定住人口を増大し、雇用機会を創出したい。あなたが村長だったらどういった施策を実行するか？」という視点から、以下の 4 つの領域に取り組んでもらいたい。

- ・窯業分野での更なる雇用拡大
- ・観光分野での新たな雇用創出に向けた観光戦略と広報戦略
- ・農業・林業分野での雇用創出
- ・ネットワークの村内への導入

¹ 本レポートにおける肩書き等は 2015 年秋期開講当時のものを採用しています。

【各チームのプレゼンテーマと概要】 ※4つのチームグループにわかれてプレゼン

2015年2月6日最終プレゼン会

〈参加者〉村長、役場関係者、村民のみなさま 約15名 学生：現地参加8名、オンライン参加6名

●グループA：窯業

「窯業 施策の方向性」⇒認知度が低いこと、人手が足りないことを課題とし、以下の方向性を提案

- ①人材交流や技術の高さなどのPRを通して人材の確保について
- ②小石原焼の「自由度の高さ」を生かした、新しいジャンルでのオーダーメイド商品展開などの検討

●グループB：観光

「観光資源の有効活用に向けた観光戦略と広報戦略の策定、低稼働資産の活用（ピーク、オフ時の大きな差）をどうするか？」⇒観光客による消費額が少ないこと、観光客向けの場や商品の提供不足、を課題にあげ、以下の方向性を提案

- ①害獣である鹿を観光資源にする観光公園の設置
- ②ドローンを利用したPR提案
- ③インバウンド観光客の誘致施策

●グループC：農業

定住人口・就業人口拡大（就業機会拡大）に向けてどのような施策を策定するか？

〈農業〉

農作物のブランド価値が低いことを課題にあげ、以下の方向性を提案

- ①食味等客観的な指標から棚田米の優位性を訴求しブランド価値を上げる
- ②自然栽培など特色ある栽培方法により農作物をブランド化、加工品の製造

〈林業〉

国の林業政策の失敗による雑木林の消失と過疎化による人手不足を課題とし、以下の報告性を提案

- ①担い手確保と山林管理手法の確立（24時間ビデオカメラで山林を撮影して管理する「サイバーフォレスト」など）
- ②鹿対策の検討

●グループD：IT

「ITを利用した村内活性化」⇒高齢化の進んだ東峰村における高齢者のコミュニケーションが希薄化を解決するための提案

- ①コミュニティを再構築するためのコミュニティプレースの創出
- ②タブレット等IT聞きの提供とフォローアップ体制の確立

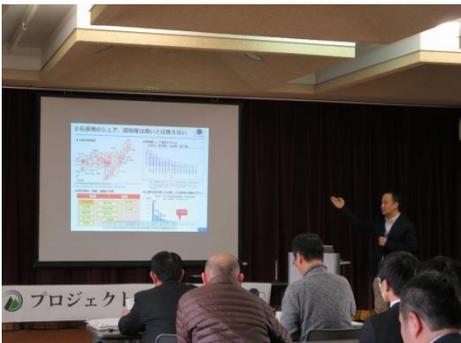
【村長・村民の方々からのコメント】

- ・小石原焼など、村内ではうまくいっていると思っていた事例もまだまだ改善の余地があることを再認識した
- ・第一ステップとして、まずは問題を見える化するという点で意義があった。問題点の洗い出しと大まかな方向性が見えてきた。
- ・村の中には見えない新しい視点からの提案が新鮮
- ・村の伝統や今まで大切にしてきたことなどを無視することはできない。
- ・歴史や技術を受け継ぎながら新しい視点を取り入れていくと良いのでは。



（左）科目中1度のみの実地調査は3泊4日で行われ、現地の方のインタビューや視察等を行い、グループごとに仮説を検証した。

（右）最終プレゼン会はオンライン参加、現地参加を選ぶことが可能。様々な背景を持つ学生の知恵が結集される。



（左）BBT大学生が得意とする問題解決力を発揮し、村の問題点を分析、解決案を提案。

（右）真剣に耳を傾ける村民の方々。客観的な視点を新鮮に感じてください一方で、村の伝統を大切にしたいという思いもあり、活発なディスカッションとなった。

【講師紹介】

宇田左近教授(BBT 大学経営学部長(現 BBT大学副学長 兼 経営学部長))



原子力損害賠償・廃炉等支援機構参与/東京電力調達委員会委員長/株式会社荏原製作所 取締役/元日本郵政株式会社専務執行役。東京大学工学部建築学科卒、東京大学工学系大学院修士課程修了(工学修士)、シカゴ大学経営大学院修了(MBA)。日本鋼管(現 JFE)を経て、マッキンゼー・アンド・カンパニー 入社。平成 15 年 東京医科歯科大学大学院医療経営学 客員教授に就任(兼務)。郵政民営化有識者会議委員を務め、日本郵政株式会社(民営化準備企画会社) 執行役員就任(平成 18 年)。日本郵政株式会社 専務執行役、郵便事業株式会社 専務執行役員、同顧問を歴任。平成 22 年 株式会社東京スター銀行 執行役 最高業務執行責任者。平成 23 年 株式会社荏原製作所 取締役就任。平成 24 年 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会 調査統括、原子力損害賠償・廃炉等支援機構参与。

【東峰村について】



福岡県の中央部の東端に位置し、大分県日田市と隣接。平成 17 年に旧小石原村と旧宝珠山村が日本で一番小さな合併(当時)をし、東峰村が誕生。総面積 51.97 平方キロのうち山林原野が約 86%以上の四方を山に囲まれた中山間地であり、豊かな清流と緑を有し、夏にはホタルが飛び交う自然溢れる美しい景観を誇る。また、伝統工芸である小石原焼、高取焼をはじめ、国の重要文化財に指定されている岩屋神社、日本棚田百選に指定された竹地区の棚田、樹齢 600 年ともいわれる行者杉など自然、歴史、文化と地域固有の資源を多く保有している。人口は、2,321 人(平成 27 年 8 月末時点)と福岡県で一番少ない過疎の村であり、少子高齢化と言った人口減少問題を喫緊の課題として定住人口の増加に取り組んでいる。

澁谷博昭村長(東峰村)



福岡県立浮羽工業高校建築科卒業。建築会社等勤務後、水資源開発公団筑後川開発局(現:独立行政法人水資源機構)入局。建築士として公団の建築設計業務に従事。本社建築課長補佐、関西支社建築課長等を歴任後、退職。

公団がダムを建設した立地自治体の衰退を目の当たりにし、危機感を抱き、退職後の人生は故郷、東峰村の村起こしに貢献する事を決意。

退職直後の平成 22 年 4 月、東峰村議会選挙に挑戦、3 位当選を果たす。その後、前村長辞職に伴う平成 25 年 10 月の東峰村長選挙に立候補し、当選。今に至る。

【BBT 大学について】



BBT University

2005 年 4 月に文部科学大臣より認可を取得し経営の専門職大学院として開学。2010 年には経営学部が新設され、「ビジネス・ブレイクスルー大学院大学」から「ビジネス・ブレイクスルー大学」に改名。新設された経営学部は、日本初の 100%オンラインで経営学学士を取得できる大学となった。大前研一が学長を務める本大学では、“teach(教える)”ではなく学生が主体的に“learn(学ぶ)”するのを手助けすることに大学の役割があると考えている。この考えに基づき、設計されたカリキュラムでグローバル時代を生き抜く力の育成を目指している。2014 年 3 月に 1 期生が卒業。2014 年 10 月には e-Learning 大賞 厚生労働大臣賞を受賞。 <http://bbt.ac/>

【BBT について】

グローバル環境で活躍できる人材の育成をミッションとして 1998 年に世界的経営コンサルタント大前研一により設立された教育会社。設立当初から革新的な遠隔教育システムによる双方向性を確保した質の高い教育の提供を目指し、多様な配信メディアを通じてマネジメント教育プログラムを提供。大学、大学院、起業家養成、ビジネス英語や経営者勉強会等多様な教育プログラムを運営するほか、法人研修の提供やTV番組の制作など様々な顔を持つ。2013 年 10 月のアオバジャパン・インターナショナルスクールへの経営参加を契機に、生涯教育をサポートするプラットフォーム構築をグループ戦略の柱の1つとして明確に位置づけている。2016 年度はアタッカーズ・ビジネススクール 20 周年、資産形成力養成講座 10 周年の節目であり、BBT 大学大学院アントレプレナーコースの初年度となる。在籍会員数約 1 万人、延べユーザー ID 数は約 20 万。 <http://www.bbt757.com/>